

国の責任で医師不足地域に医師を派遣・確保する取組を

日本共産党が昨年の参院選で発表した医師確保のための政策

いざというときに身近で適切な医療が受けられる体制をつくる—これは上越市総合計画に書かれている政策目標のひとつです。ところが、私たちにとって一番身近な医療機関が医師不足によって維持できるかどうかという問題に直面しています。

こうした問題は上越市だけの問題ではありません。全国で深刻な社会問題となつていきます。

日本共産党は昨年の参院選において、どうしたらこの問題を解決できるか政策を明らかにしました。今号では、その主なポイントを紹介します。

医師不足の根本原因は、「医者が増えると医

療費が膨張する」といって医師の養成数を抑制し、日本を世界でも異常な「医師不足の国」にしてきた歴代政権の失政です。そこに、診療報酬削減による病院の経営悪化、国公立病院の統廃合・民営化などの「構造改革」が加わって、地域の拠点病院・診療科の消失が引き起こされています。

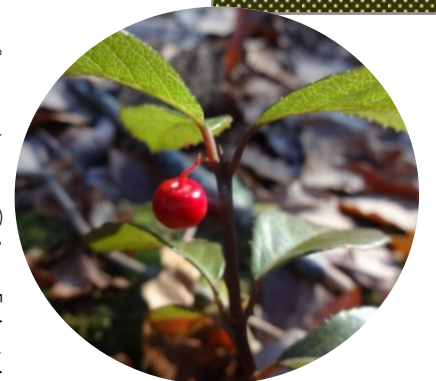
ポイント①、国の予算投入で医師の養成数を抜本的に増やし、計画的にOECD加盟国平均並みの医師数にしていきます。そのために、医学部定員をただちに1.5倍化します。医学部の「地域枠」や奨学金の拡充、教育・研修内容の充実をはかります。

ポイント②、産科・小児科・救急医療などを確保する公的支援を抜本的に強化します。地域の医療体制をまもる自治体・病院・診療所・大学などの連携を国が支援します。

ポイント③、医療の安全・質の向上、医療従事者の労働条件改善、産科・小児科・救急医療の充実などにかかわる診療報酬を抜本的に増額します。

ポイント④、医師の公的任用、公募などで医師を確保する「プール制」「ドクターバンク」、代替要員の臨時派遣など、不足地域に医師を派遣・確保する取り組みを、国の責任で推進します。

ポイント⑤、勤務医の過重労働を軽減するため、薬剤師、ケースワーカー、助産師、医療事務員、スタッフの増員をはかります。院内保育所や産休・育休保障など家庭生活との両立をめざします。女性医師の働きやすい環境づくり、産休・育休・現場復帰の保障などを国として支援します。



【ヤブコウジ】漢字で「藪柑子」と書きます。ヤブコウジ科の常緑低小木です。私はつい最近まで木だとは思っていませんでした。高さはせいぜい20センチほどです。赤い実をつけます。正月の縁起物として栽培している人もいます。別名、十両（じゅうりょう）

ポイント⑥、「公立病院改革ガイドライン」の押しつけをストップします。国公立病院の乱暴な統廃合・民営化や、社会保険病院・厚生年金病院・労災病院などの売却をやめ、地域医療の拠点として支援します。

ポイント⑦、2004年の新臨床研修制度の導入によって、大学病院の医師派遣機能が低下したことは医師不足が露呈するきっかけとなりましたが、新臨床研修制度自体は、研修医の臨床能力を向上させる改善です。ところが、政府はこれを「医師偏在」の原因だとし、臨床研修期間を実質的に短縮し、これまで医師を育ててきた地域の中核的医療機関が臨床研究を行うことを困難にする制度改変を行いました。日本共産党は、より良い医師を育てるといふ臨床研修制度の主旨をまもり、研修内容の充実、受け入れ病院への支援強化、研修医の待遇改善をすすめます。



今年の雪は昨年よりも少ない状況となっています。こうした中、市内では毎日、積雪の計測が行われています。市内で計測しているところは全部で27カ所。写真は吉川区上川谷の宮川俊一さん。

春よ来い 第二八八回 折り紙

下町の伯母の葬儀が終わった翌日、浦川原区の介護老人保健施設、「保倉の里」に入所している「岩佐のおばさん」のところへ母とともに行ってきました。「岩佐のおばさん」に会うのは数か月ぶりです。

「岩佐のおばさん」に会いに行きたいと思ったのは、折り紙のことを思い出したからです。「おばさん」は、直江津の病院に入院していた昨年冬、「こんがなことでもしなきや、手持ち無沙汰でさね」と言いながら、折り紙を使って見事なくす玉や人形を作っていました。思い出したきっかけは下町の伯母が大量の折り紙を残して逝ったことでした。下町の伯母もまた、物忘れ対策などで折り紙をやっていたのです。

「保倉の里」に着くと、職員さんが食堂にいた「岩佐のおばさん」をすぐ呼んできてくれました。母の顔を見た途端、「おばさん」は、「まあ、来てくんだったか」と言ってお喜びました。そして、「さーさ、おれんところへ行きさね。一人部屋だすけ」と言ってお喜びました。驚きましたね、ステッキを使いながら歩いていたのですが、私よりも歩くスピードが速いんです。もちろん、母はついていきませんでした。「おばさん、元気になったな」と思いました。

「おばさん」の部屋からは外の景色が見えます。「国道が見えるし、円重寺も見えて。こっちは南側になるのかね」と尋ねると、「いや、西じゃないだろうかね。それにしても、あんた、よく知ってなんね」という言葉が返ってきました。私は先日、円重寺のそばを通り、菱田の大池公園へ行ってきたばかりでした。

ベッドの脇には棚があります。そこに白い紙で折られたツルが二羽いました。一羽はピンポン玉くらいの大きさ、もう一羽は縦横一センチにも満たない小さなものでした。いまでもなく二羽とも「おばさん」が折ったものです。適当な紙さえあれば、なんでも折ってしまうといえますから、たいしたものですね。ツルの小さな方はキャラクターの包み紙を使っていました。

二羽の折り鶴を見て、「おばさん」が病院に入っていた当時の作品の写真が私の携帯電話に残っていることを思い出しました。さっそく携帯を取り出し、画像を再生してみました。病院のベッドの脇にぶら下げられたカラフルなくす玉が写っていました。それを「おばさん」に見せると、懐かしげにのぞき込み、作品の思い出や家を持ち帰ったことなどを語ってくれました。

「おばさん」と母との会話で一番賑やかになったのは干し柿とタヌキの話です。わが家では母が柿の皮をむき、細いヒモにくくりつけ、二階の窓のところにぶら下げて干し柿づくりをします。数年前、この柿をねらってタヌキが屋根から干し柿に接近し、ヒモの下の方の柿をいくつも盗んでいました。

ところが、ある時、そのタヌキが屋根からすべって地面に落ちたのです。「ドスン」という音を聞いてしばらくしてから、母が外を見ると、タヌキは庭木の所でうずくまっていたといえます。屋根に登っていたタヌキは二匹で、落ちなかったタヌキは心配そうに落ちたタヌキのそばにいたとか。母と「おばさん」は何度もこの話をしているのでしょうか。思い出しては笑っていました。

「岩佐のおばさん」の誕生日は二月二日。下町の伯母と同じ日です。ただ九歳下です。下町の伯母とはもう会えないので、母とはこれまで以上に大事なお茶のみ友達になりました。約三〇分の訪問の最後、二人はしばらく手を握り合ったままでした。

45地方議会が秘密保護法撤廃などを求め意見書

秘密保護法の撤廃を国に求める意見書を45の地方議会が採択していることがこのほどわかりました。これは「しんぶん赤旗」がこのほど明らかにしたものです。

同紙によると、昨年12月6日に秘密保護法が成立後、同法の廃止・撤廃・凍結を求める意見書が北海道、長野県、沖縄県などの45市町村議会で採択され、衆参両院で受理（受理予定を含む）されたといえます。

意見書では、「“秘密”の範囲や指定期間、処罰の対象が際限なく、恣意的に拡大されていく危険性を含んでいる」「国民の『知る権利』や『取材・報道の自由』を侵害するだけでなく、日本国憲法における国民主権の原則や平和主義を侵害する」など、秘密保護法の問題点や違憲性を指摘しています。

が復興に役立ててほしいと大島町議会に義援金（総額で32万円）を贈ったことに対するお礼です。

礼状には、「台風26号による当地の災害に際しましては早々にご厚情あふれるお見舞いを賜り、ありがたく厚くお礼申しあげます」「台風26号は記録的な暴風雨をもたらし、当町も局地的に甚大な被害を受け、未だ行方不明者の発見に至っていない方々もおられますが、早期の復旧、復興を目指し議員一同全力で努力しているところですので」と書かれていました。

大島町と上越市は友好関係にあります。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	1月8日(水)	1月15日(水)
上越南消防署	0.040	0.026
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.043	0.036
頸北消防署	0.040	0.056
頸南消防署	0.053	0.057
東頸消防署	0.043	0.040
高士分遣所	0.046	0.053
名立分遣所	0.047	0.047

東京大島町議会 議長からお礼状

台風26号で甚大な被害を受けた東京都大島町の中村佳一町議会議長から上越市議会にお礼状が届きました。

これは昨年12月に上越市議会議員全員

